



日鉄高炉セメント株式会社 石灰事業部

Nippon Steel Blast Furnace Slag Cement Company Profile



日鉄高炉セメント株式会社

石灰事業部

■ 統括グループ

〒803-0801 福岡県北九州市小倉北区西港町16番地
TEL(093)563-5121 FAX(093)563-5108

■ 第1石灰工場

〒803-0802 福岡県北九州市小倉北区東港2-1-1
TEL(093)561-7435 FAX(093)591-3876

■ 第2石灰工場

〒804-0002 福岡県北九州市戸畑区大字中原46-93
日本製鉄 戸畑構内
TEL(093)872-5331 FAX(093)861-3051



<https://www.kourocement.co.jp>

私たちは「高炉セメントのパイオニア」として、より豊かな社会に貢献します。

Foundation of Society

社会の基礎作り。

人と社会と未来をつなぐ。

企業理念

基本理念

日鉄高炉セメントグループは、セメント・生石灰の関連製品の創造並びに普及を通じて、社会の発展に貢献します。

経営理念

1. 社会およびお客様と共生し、信頼される会社であり続けます。
2. 高炉セメントパイオニアとして、信頼される新商品と新技術の普及と創造に努めます。
3. 変化を先取りした変革に挑戦し続けることで、明るい未来を自ら切り開きます。
4. 風通しの良い活力溢れる職場での対話を通じ、働くことに誇りをもった人材を育成します。

History & Company Profile

日鉄高炉セメント株式会社の歴史

1910年(明治43年)	官営八幡製鉄所において高炉セメント試験製造開始 (日本における高炉セメント発祥の地)	1970年(昭和45年)	新日本製鉄(株)発足にともない、八幡化学工業(株)から 新日本製鉄化学工業(株)へ社名変更
1918年(大正7年)	前田セメント工場 設立	1984年(昭和59年)	新日製鉄化学工業(株)から新日鐵化学(株)へ社名変更
1936年(昭和11年)	洞岡セメント工場 設置	1999年(平成11年)	新日鐵化学(株)セメント部門が独立し、 新日鐵高炉セメント(株)設立
1950年(昭和25年)	八幡製鉄(株)八幡製鉄所 設立	2010年(平成22年)	日本における高炉セメント製造開始から100年
1955年(昭和30年)	前田セメント工場 閉鎖	2012年(平成24年)	八幡生コン工業(株)を子会社化
1956年(昭和31年)	八幡製鉄(株)セメント・化成部門が独立し、 八幡化学工業(株)設立	2012年(平成24年)	新日鐵住金(株)発足にともない、新日鐵高炉セメント(株) から日鉄住金高炉セメント(株)へ社名変更
1958年(昭和33年)	小倉セメント工場 設置	2014年(平成26年)	日鉄住金リコテック(株)、日鉄住金テックスエンジ(株)の 石灰事業を統合
1965年(昭和40年)	洞岡セメント工場 閉鎖	2019年(平成31年)	日本製鉄(株)発足にともない、日鉄住金高炉セメント(株) から日鉄高炉セメント(株)へ社名変更

Company Profile

- 所在地／北九州市小倉北区西港町16番地
- 事業内容／セメント・生石灰製品の製造販売、産業廃棄物の処理
- 工場／セメント工場、第1石灰工場(小倉北区)、第2石灰工場(戸畑区)
- 支店／九州支店(福岡)、中国支店(広島)、四国支店(高松)、大阪支店
- 従業員／158名(2019年3月末)
- 資本金／15億円
- 売上高／13,121百万円(2019年3月期)

産業、都市、社会の発展とともに歩んできた石灰事業部と製品をご紹介します。

Introducing Divisions and Products

日鉄高炉セメント株式会社

3つの事業体制

セメント事業

セメント
主として
高炉セメントの
製造
販売
開発

SL事業

SL
セルフレ
ベリング材の
製造
販売
開発

床仕上げ材
鉄骨
鉄筋の充填材等

石灰事業

生石灰の
製造
販売
開発

生石灰とは
生石灰は酸化カルシウムという物質で、石灰石を焼成する事で得られます。焼成方法の違いにより、得られた生石灰は様々な特性を持ち、製鉄用、土質安定処理、建材原料、排ガス処理等に利用されます。身近なモノとしては、学校で使用しているチョークやライン引き、お菓子の袋に入っている乾燥剤などにも利用されています。

第1石灰工場 沿革

1951年(昭和26年)	小倉鉱滓工業(株)設立
1960年(昭和35年)	小倉鉱化工業(株)へ社名変更
1961年(昭和36年)	石灰焼成炉1号炉の稼働(1981年解体)
1964年(昭和39年)	石灰焼成炉2号炉の稼働
1977年(昭和52年)	石灰焼成炉3号炉の稼働
1979年(昭和54年)	住金小倉鉱化(株)へ社名変更
1998年(平成10年)	住金リコテック(株)(住金小倉鉱化(株)、住金小倉プラント鉱業(株)、倉鉄鋼業(株)3社合併)
2012年(平成24年)	新日本製鐵(株)と住友金属工業(株)の合併 日鉄住金リコテック(株)へ社名変更
2014年(平成26年)	日鉄住金リコテック(株)の分社化 石灰工場を日鉄住金高炉セメント(株)へ統合

第2石灰工場 沿革

1946年(昭和21年)	太平工業(株)創業。九州支社を開設。
1970年(昭和45年)	八幡に石灰工場を建設し、石灰生産体制を構築
1975年(昭和50年)	炉保護用として軽焼ドロマイト販売開始 (平成12年8月中止)
1988年(昭和63年)	溶銑予備処理用として生石灰粉の販売開始
1994年(平成8年)	製銑工場向けに生石灰粉販売開始
2004年(平成16年)	製銑工場向けに炭カル粉の販売開始
2004年(平成16年)	湿式集塵機から乾式集塵機へ仕様変更 (環境改善対策として)
2013年(平成25年)	(株)日鉄住金エレクトックスと経営統合し 日鉄住金デックスエンジ(株)へ社名変更
2014年(平成26年)	日鉄住金デックスエンジ(株)から業務移管 石灰工場を日鉄住金高炉セメント(株)へ統合



石灰事業部の製品

用途	製銑用	高炉に使用されるペレットの通気性改善と強度向上のため石灰石を一部代替して生石灰を使用します(バインダー剤)
	製鋼用	転炉で溶鋼内の不純物(りん、硫黄、珪素等)を除去するために、生石灰を使用します(お客様ニーズにより、塊・粒状に対応)

主成分 酸化カルシウム 化学式 CaO

荷姿 バラ(ダンプトラック、ジェットバック)

特長 ●2タイプの焼却炉による製品の造り分けをしています。
●各種粒度の製品を取り揃えています。

第1石灰工場 製品 形状・サイズ

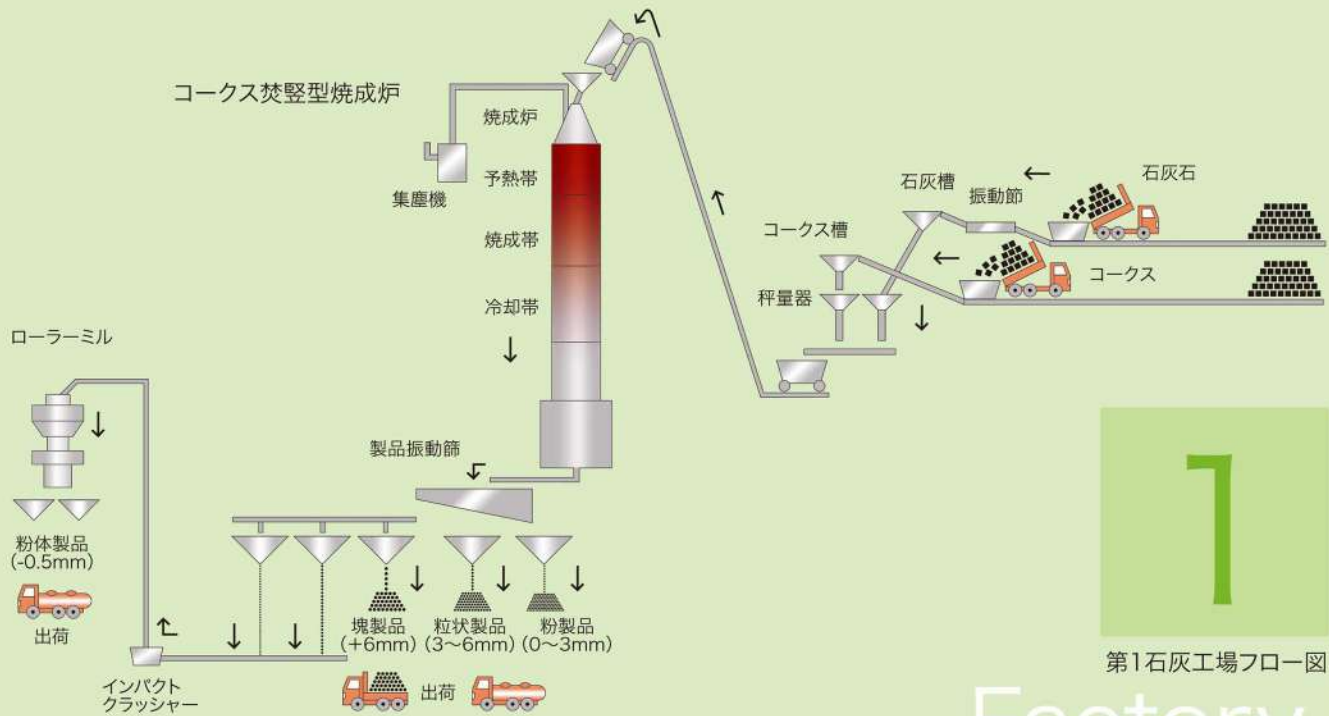
白色塊状	白色粉状	白色粉状
7~50mm	0~3mm 3~6mm	150μm 通過95%以上

第2石灰工場 製品 形状・サイズ

白色塊状	白色粉状	白色粉状
2~30mmアンダー	2mm通過95%以上	75μm 通過60%以上

安全と確かな製品管理で稼働する2つの石灰工場をご紹介します。

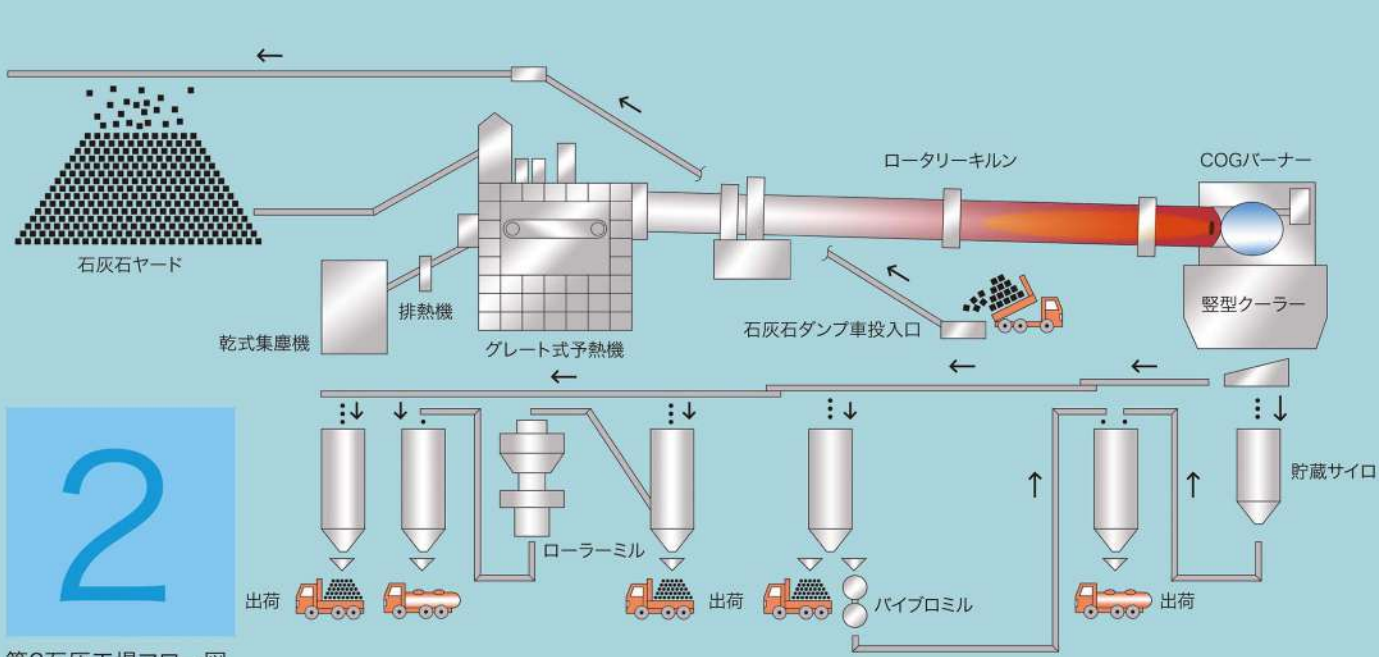
生産の効率性と省スペースを活かした縦型焼成設備。



1

第1石灰工場フロー図

大きな生産能力を持った大型ロータリーキルンの横型焼成設備。



2

第2石灰工場フロー図

第1石灰工場

焼成炉仕様

- 名称／コークス焚型焼成炉
- 焼成炉数／2基(2号炉1964年稼働、3号炉1977年稼働)
- 生産能力／150T/D・基

No.3型焼成炉外観



縦型焼成炉頂部



工場入口側から



第2石灰工場

焼成炉仕様

- 名称／ロータリーキルン
- 焼成炉数／1基(1970年稼働)
- 生産能力／600T/D

ロータリーキルン外観



貯蔵サイロ



ロータリーキルン出口付近

